

《学年経営方針》

6年生の実態としては、全体に活発で明るい。スポーツを好む児童が多く、サッカー、野球、バドミントン、卓球などスポーツ少年団に所属している児童も多い。前学年から「感じて動く」を学年目標にして活動してきたこともあり、行事や委員会にも積極的に取り組む姿が多く見られた。が、時によく考えずに行動してしまうことや言動の善し悪しの判断がつかなくなることもあった。

学習面では、積極的に取り組む児童と、そうではない児童との差が大きい。そのため、考えを表出しないまま、わからないまま過ごしてしまうことにもなりかねない。さらに、わからなくてもいい、勉強がじゃまくさいと無気力になりつつある児童もいる。それが、字の乱雑さ、忘れ物の多さ等生活面のだらしなさにもつながっているように思われる。

また、対人関係において不器用な児童や不登校傾向の児童など、配慮が必要な児童が多い。反面、個性あふれる集団で6年間過ごしてきたため、うまく個を受け入れられる良さを持った集団でもある。

学習面の課題としては、学習への意欲、宿題を含めた家庭学習の定着をはかるために、学年全体としてどのように取り組めばいいか、習熟が不十分な児童に対しての効果的な補習をどうするかを挙げられる。

特別活動面の課題としては、問題を抱えた児童が、学年集団の中で自分の居場所や役割を見つけ、最高学年としての自分なりの自己有用感を持てるようにするための配慮はどうあるべきか、また、周囲の児童のその子へサポートや関わり方をどう育てていくかが課題である。

4人の担任で確認したことは、児童のがんばりを認める教師の関わり方を探り、初めて経験することに対しては、丁寧に準備をして自信を持って臨ませること、学校行事に対しては主体的に活動できること、自分の役割に責任を持って参加できることを大切に、全員実行委員形式で1年間の行事にあたることとした。また学年目標として、「よりグレートな6年生をめざして」を掲げ、具体的には「みんなで学び合うことを喜びとして感じられる6年生」「優しく思いやりのある6年生」「けじめのある、責任感のある6年生」を目指して様々な活動に取り組んでいる。

《学級経営方針》

「いよいよ6年生。一人ひとりが、三馬小学校のリーダーです。何でもやってみよう。そして、失敗してみよう。そうすれば、それが必ず力となり、次に生かされます。失敗しても、先生がしっかりカバーするから、進んで考え、行動しよう。心あったかく心優しく 心合わせて 6年生みんなでがんばろう！」

これは、最初にクラスに掲げた6年生への最初のメッセージである。どんどん積極的にアイデアを出しながら、時には前向きな失敗をしてもいい、そこから学ぶことは多々あると考える。失敗を恐れずに自分らしさを出しながら安心して活動していけるようサポートしていきたいと思い、子ども達への最初のメッセージとした。

6年3組は男子19名、女子17名の計36名でスタートした。4月当初の実態は、休み時間は元気にぎやかであるが、授業中は静かでおとなしい様子が見られた。指名をすれば発表はできるが、自主的に発表する児童は一部で、全員で授業を作るという雰囲気づくりが課題であった。学習に対してはほとんどの児童が真面目に取り組むが、個別指導が必要な児童もおり、全体的に忘れ物が多い。児童一人一人は、6年生になり最高学年としての自覚も芽生え、6年生としてどうすればいいか、何が必要かは分かっている。後は、それを常に意識し、行動を伴わせることが現在の課題

でもある。また、行動面や家庭環境で観察・指導が特に必要な児童がいるので、家庭との連携もはかりながら気をつけている。

学級目標としては、「けじめをつけ、最後まであきらめずに努力し行動しよう！」「学校は間違ってもいいところ。失敗してもいい！みんなで励ましあい助け合おう！」の2つを基本とし、これに児童のどんなクラスにしたいかを加え学級目標として取り組んでいる。

《4月からの学級活動での取り組み》

- ・ 6年生は最高学年、学校の顔である。学校を引っ張っていく中心的な役割を担わなければならない。6年生となって、みんな一人一人が「6年生になったらこんなことがしたい」「こんな6年生になりたいな」という思いや決意があると思う。そこでまず最初に、その気持ちを大切にしながら、一人一人が**今よりもグレートな6年生（尊敬される・偉大な）**になれるよう自分の目標を「ただがんばる」ではなく、そのためにどうするかも含め書かせた。そこからは「忘れ物をしない」「なんでもチャレンジする」「責任感のある6年生になりたい」「委員会でがんばる」など6年生としての自覚が感じられるものから、今までの自分が苦手としていることを今年は何とかなしようという気持ちが伝わってきた。
- ・ お互いのことを認め合え、男女問わず仲良く協力し合える集団に向かうために、月曜日の長休みをクラスで遊ぶ時間としている。また、楽しく思い出に残る学級行事を企画し（子ども達中心に）活動している。
- ・ 発言・行動面で配慮が必要な児童と周りの児童との関係が、お互いに希薄であるように思われる。そこで共に活動する機会を多く設定し、お互いを認め合える関係作りを目指している。トラブルや問題があった時には、クラス全体での問題と捉え、みんなで解決を図り、お互いを認め合ったり、時には叱り合ったりできる雰囲気作りを目指している。そこからクラス全体で多くのことを学びとらせたい。
- ・ 児童の小さな変化も見逃さず、気にかかることがあればすぐに家庭と連絡を取り、お互いに子ども達を見ていくという関係を築いていく。学級通信「STAR」で、児童の学校での様子や活動を中心に、何を考えどんな行動をしているのかをその都度、タイムリーに伝えている。
- ・ みんなが安心していられるクラスにするためには、まず、お互いのことを知ることが大切なことと考える。そこで、「6年3組クイズ」として、友達のことをどれだけ知っているか書き出してみることにした。項目は、「名前」「あだな（ニックネーム）」「兄弟姉妹はいるか」「好きな（嫌いな）食べ物」「好きな（嫌いな）教科」「いいな、素敵だなと思うところ」をクイズにしてプリントに記入した。クイズの結果は、予想された通り、いつも遊んでいる子や仲の良い子のことはよく書けて、同性でもあんまり関わりの無い子のことは書けなかった。また、異性のことは名前やあだ名は書けるところは多かったが、ほとんど真っ白の児童もいた。普段の学校生活や運動会や宿泊体験など、学級としてまとまる活動もたくさんある。これらの活動を経て、どれだけ友達のことを知っていけるか、お互いのことを理解できるか、これからの過程も大切にしたい。